



## 中堅・中小

# スティックスバイオテック、ウイルス検査材で海外進出

掲載日 2010年05月19日



【鹿児島】スティックスバイオテック(鹿児島市、隅田泰生社長、099・800・1892)は、ウイルス検査などに使える材料(バイオデバイス)の台湾での販売を始めた。4月に発足した協力会社、スティックス台湾(中歴市)を通じて販売する。今後はマレーシアにある大学などの研究機関や医療機関にも売り込む。同社が材料を海外で販売するのは初めて。年間5000万円の販売を目指す。

販売を始めたのは、細胞表面にある鎖状の糖「糖鎖」をナノメートル(ナノは10億分の1)サイズで固定した金属チップ「シュガーチップ」や、金の微粒子に固定した「糖鎖固定化金ナノ粒子」など。特定のウイルスやたんぱく質と結合し、濃縮などにより人や家畜の病気診断に使える。

インフルエンザウイルス検査の場合、従来の簡易検査法よりも精度が高く、感染早期でも検出できるのが特徴だという。